

一般社団法人 千葉県社会福祉士会
平成 26 年度 第 6 回理事会議事録

1. 開催日時 平成 27 年 1 月 17 日 (土) 10:00~11:35
2. 場 所 塚本千葉第 5 ビル 3 階 会議室
3. 出席者 会 長 染野
副会長 相澤、奥野、宮間
会員理事 (総務・企画委員会) 岡本
(総務・広報委員会) 小川
(総合相談委員会) 渋沢
(研修委員会) 浅見、五月女
(ばあとなあ委員会) 櫻井、吉田
(独立型社会福祉士委員会) 大浦、出口
外部理事 田中、近藤
監 事 伊達、山口

4. 議題

- (1) 各委員会報告事項に対する質疑
- (2) 議事 ① 総会資料の確認について
② 補正予算について
③ その他

5. 議事録

○ 出席者及び資料の確認

- ・ 宮間副理事から、本日理事会欠席者 6 名だが、定款第 3 4 条により定足数に達しており、本理事会は成立すると報告あり。配布資料の確認。
- ・ 染野会長から開会挨拶
1 年の 1/24 が早くも終わっているが、今年もよろしくお願ひします。本日は来年度の予算案を確認していただき、印刷に出したいと思っている。阪神淡路から 20 年が過ぎた。この災害からボランティア運営などが一般化・市民化してきたように感じる。
- ・ 定款 32 条に基づき、染野会長が議長を務める。

○ 議題

(1) 各委員会報告事項に対する質疑

ばあとなあ千葉運営委員会

・ ばあとなあリスクマネジメントから 3 件報告がある。①会員からクレームがあり、訴えられることになりそう。後見人のありかたについて面接をしたが、納得されなかった。②登録員へのクレーム 被後見人の生活をソーシャルメディアにより発信した。③登録員の突然の逝去 2 人の後見を受任していた。

・ コーディネート会議は現在月 2 回開催し、(通常は) 1 回で 10 件くらいの推薦をする。最近では案件の困難化・問題化・無報酬といった問題が多い。1 件につき 3 人推薦候補者とするが、さらに 5 人・7 人くらいに依頼しないと引き受けてもらえなくなっている。ばあとな

あメールリングリストに載せて候補者に手を上げてもらうようにしなければならないかもしれない。東京・埼玉・神奈川は既にメールリングリストに拠っている。千葉はコーディネーター4人で相談している。

- ・2/3に千葉家裁と懇談会がある。
- ・ソーシャルメディアを使ってというのは？ どういうこと？
- ・具体的にはFacebookに被後見人の生活を載せていた。後見活動がいかに大変なことであるかを伝えているというが、個人が特定できる情報発信されていることが倫理綱領に則っているのか。リスクマネジメントで考えていきたい。

研修委員会

- ・基礎研修2の開催場所についてアンケートをとった。(基礎研修1の参加者でとったので)南の参加者が少なく、今年度は中止する。委員会で再度話し合い、基礎研修1を2ヶ所に分けることを考えていきたい。

(2) 議事

①総会資料の確認について

- ・印刷所入稿前の資料となっている。3頁に補正予算(案)がある。新たに事業を追加したり、事業の実施がなく補正したものを組んでいる。この他にないか確認してください。4ページ以降に平成27年度事業計画があり、事業ごとに項目となっている。これが11頁以降の予算につながる。
- ・総会に出席する代議員からの質問で多いのは事業目的、事務局で計上される予算の増減について。それぞれの委員会の目的などは各委員会理事に担当して説明してもらうことになるかもしれない。
- ・19日に入稿を予定している。修正があればそれまでに連絡してほしい。
- ・17頁に定款の変更がある。該当条項の全文を掲載しているが、26頁(議長)、27頁(議事録)について変更している。
- ・ばあとなあんの平成27年度予算について説明したい。14頁6成年後見人養成研修(参加者30名を想定した)777,000円だが、基礎研修1でアンケートをとったところ、23名の希望があった。茨城県からの参加、今年度から廃止される通信からの移行者を考えると50名くらいになるかもしれない。となると、収入も増えるが、その分人件費などの支出も増えると思われる。
- ・代議員からの質問は「細目について」が多く事務局での対応が難しい場合は、それぞれの委員長にこたえてほしい。新しい事業計画については資料などの準備をお願いしたい。
- ・平成26年度予算は現在ギリギリの状態である。プラスになることはないと思われる。また、12/9より、事務局のパソコンサーバー(外付けハードディスク)にトラブルが発生し、データアクセスができない状態である。故障の原因は不明。データ復旧を急いでいるが、データレスキュー費用として35万円くらいかかりそうだ。
- ・今後のデータ管理の対策は？
- ・今回のことでの反省は、「データは飛ぶ」ということ。これを前提に今後はバックアップし、HDD2個付け(リンクしないように)するしかない。リスクを前提にしなかったのが原因である。

②補正予算について

- ・補正の内容を3頁で確認してください。収入の部 2三団体協働事業費については今までは

社士会の中に位置づけていたが、銀行口座を別に作り、会計を分離した。総合相談事業 5 認知症支援専門職研修は前年度県の委託を受けたが、今年度は 2/21 に社士会が開催する。研修事業 5 J C 教育研究所問題作成については Web 模試を 1 問あたりの単価で委託していた。150 問から 50 問作成とした。4 ばあとなあ千葉運営事業 19 レベルアップ研修 新規事業として補正する。この 5 つの事業についてご意見を。

- ・前年度と変わったところは？
- ・予算書でみていただくと、事業の後に（新規）がついているもの。1.大幅に組み替えたのは、ばあとなあ予算の部分。受任者のサポート、後見人養成、監督機能の充実、レベルアップなど細かい項目となっている。2.独立型も組み替えている。新規事業が 3 つある。3.研修事業も基礎研修 1.2.3 をそれぞれの事業とし予算化した。
- ・事業計画書の作り方については三役でもわかりにくいのではという意見が出た。整合性が見えにくい。ブラッシュアップしたらどうかなど。ただ、今年は前年度を踏襲している。事業計画については、来年度見直ししたい。
- ・3.研修事業の 10,11 淑徳大学の関係の説明を。
- ・今年度も行っている。今年度は大学等交流事業になっていた。大学の考え方が 1 年生は正課外とし、希望者のみだったものを、正課プログラムとなったので、事業化し予算化できた。
- ・13 頁 3.研修事業 基礎研修 2 は新規か？
- ・前年度はまとめて基礎研修として予算計上したが、今年度は項目をそれぞれたてたので、基礎研修 2.3 が（新規）となった。
- ・一般社団法人になったので、通常総会は 1 回でよくなった。（3 月は）「第 1 回臨時総会」のタイトルにしたが、（6 月は）「定時総会」となる。
- ・「定時総会」の振り番号はその法人を設立した時が「第 1 回」となり、あとは経年により増えていくのでは。単年度で常に「第 1 回」とはならない？

③その他

・事務局報告資料 7 頁の「千葉県医師会」地域医療連携推進講演会の日程を 12/25 から 1/28 に訂正願います。

・追加として、11/29 千葉県教育文化会館で「千葉県成年後見制度研究会」が開催された。関係 5 団体で（県社協・市社協・リーガルサポート千葉・司法書士会・千葉社士会）「成年後見を普及する会」とし、前年までは社士会を除いた 4 団体だったが、今年度から主催者側になった。

400 名くらい集まった。

・各委員会からの請求書・経費・スタッフ謝金など 3 月を超えての請求が多く、昨年度未払い金が多いとの意見が出た。未払い金を減らしていきたい。2 月を目安に事務局へ提出してほしい。3 月に活動する委員会も、4/17 までに請求してほしい。6 月の総会資料で一歩進んだ報告ができる。

・医師会より第 3 回終末期医療の資料が届いている。回覧するので希望者は連絡いただきたい。

・基礎研修を回すスタッフが足りない。基礎研修 1 は集合研修が 2 日間なのでなんとかなる。特に基礎研修 2 のスタッフが不足。社会福祉研修センターと塚本に分かれると足りない。基礎研修 3 は、受講生兼スタッフとなってしまう。各委員会から 1.2 名まわしてほしい。平成 27 年から「生涯研修センター」を立ち上げ、そこで講師やスタッフを手配できるようにしたい。平成 28 年度には会全体で研修を支えていくセンター方式を考えている。是非、協力のほど。

- ・生涯研修指導員の募集はどうなっているか？

・応募してくるが、(活動内容を)軽く考えている方が多い。時間があれば行くとかの理由で呼びかけしても、実際は応募の半分くらいしか活動してもらえない。指導員募集を始めて、3年経つが、当初10名くらいだったのが、現在残っているのは2名ほど。基礎研修3は日本会から何が何でも、必ず開催するようと言われている。今年度を乗り越えれば、何とかなりそう。基礎研修2は1回4名を基準に考えている。1年間で12回ある。基礎研修2.3は同日開催とし併せてスタッフを募集したい。委員長は講師をせずフリーとなって各研修を集約する予定。予算を付けた以上責任をもって活動してくれる方をお願いしたい。

・(研修スタッフのことで)そんなに苦労しているとは思わなかった。それぞれの委員会の様子が分かるようにしないと相互協力もできない。わかりやすく見せる工夫、大きな課題である。

・会が動いている方向性を事業報告から、読み取りにくい。この文章の形を直さなくてはいけない。

・総会で各委員から報告させた方がいいのでは。資料の作り方を考えるのもそうだが、口頭での説明も必要だ。代議員は知らない人が多いので、丁寧な説明が必要。

・現在事業の説明は事務局長が行っている。

・担当の委員が話した方が分かりやすい。

・各委員担当が了承すれば、事業説明をお願いしたい。

・全部の委員会をそのようにすると総会運営自体の時間が厳しくなる。

・精神保健福祉の総会は担当者の説明だけで1時間以上かかる。

・時間を区切るのはいかがか。しかし、1~2分ではできない。まとめるのも難しい。代議員が理解しているかどうかもわからない。丁寧な説明も必要だが時間が足りない。もし、委員長がするなら、時間を厳粛にする。強制終了させるようにしないと、話し始めたらきりがなくなる。ポイントを絞って的確に。

・総会が紛糾することは悪くないことだ。それを恐れず分かり易く伝えることに重点を置いてほしい。

・総会前に理事会がある。そこで確認できるので準備はできる。タイムテーブルを作ったうえで今回は実施してみたい。

・議事は以上。外部理事・監事さんからご意見を

・精神保健福祉の役員会は5時間以上かかる。全てが長い。若い会員が参加したいのは研修である。精神保健福祉の研修参加費は大体500円。(社士会の)研修費は高い。

・弁護士会の総会は荒れる。否決されることも時々あるが、出ているだけで面白い。いろいろな意見が聞けることがいい。

・総会資料2頁 議案第1号(以下4号まで)「平成26年度補正予算について」は「平成26年度補正予算(案)について」のように(案)をいれるのではないか。3頁「以下の課目」は「科目」ではないか。15頁事務費の使用料減額の理由を

・使用料としては、平成26年ベースで提出しているが、精査してみると使用料として計上すべきは塚本、リコー印刷機と決まったものしかなかった。前年度の予算の立て方に誤りがあった。

・先ほどの事務局HD故障についてだが、ネット通信で保存することもできる。自己完結で管理することもあるだろうが、専門業者に管理委託という方法もあるのでは。今後のアクシデントに対応できるようにしてほしい。

- ・平成 27 年度収支予算書で H26 予算額 (H26.12.1 現在) の金額は補正予算書の補正前予算額なのか補正額なのか。見た人が整合性を取れるように。どこの数字をもってきているのか。
- ・事業計画 1.基本活動方針 (下から 2 行目)「今年度は…」とあり、最後に「今後の」とあるが、「今年度は…」は「平成 27 年度は」ではないだろうか。
- ・事業計画 2.事業内容のうち (1) ~ (4) を 2.事業の重点とし、(5) を 3. 各委員会・部会にしたらどうだろうか。
- ・各委員会のうち、ばあとなあ事業計画は特に分かりづらい。部会制にしたならば、部会ごとに担当する事業を明記してほしい。部会の下に事業を組み入れる。また、各部会とばあとなあ運営委員会との関係性も不明。
- ・9 頁 (5 行目) 権利擁護「センターばあとなあ千葉」は、「権利擁護センターばあとなあ千葉」ではないだろうか。
- ・9 頁 (5) 登録員のしおりの項目で 「後見人のしおり作成」は補正予算で計上されているが、「マニュアル作成」は予算化されていない。
- ・この変更を 19 日入稿に間に合うのだろうか。
- ・個人の意見なので、判断は理事会に任せる。
- ・予算については整合性をとる。
- ・ゲラ刷りで校正もできると思う。

次回理事会の予定

3 月 7 日 (土) 午前中理事会、午後総会となる。ご出席いただきますようお願い致します。
(11:35 閉会)